

## 月刊ネット時評

8月



お生 ひろ 山形 浩  
 (評論家)

インターネットが既存のメディアをどう変えるかは、ネット業界お気に入り話題の一つだ。紙媒体の終焉は長く言われている。

アマゾン・コムがKindleという電子ブックリーダーでかなりの成功を収めている。流通も、そのアマゾンや、アップルのiTunesストアなどが手法をほぼ確立しつつある。

だがその一方で電子メディア特有の問題も次第にあらわになりつつあるようだ。

毎月1回、山形浩生、明治学院大学教授の稲葉振一郎、批評家の宇野常寛の3氏が交代で執筆します。

## コントロールできすぎが問題に

が、それにかわるはずの電子ブックなどは前世紀末からなかなかモノになる気配を見せない。それを読むためのリーダー機器が未成熟なので、コンテンツの点数が乏しく、流通体勢も整わず、だから機器も売れないという悪循環が繰り返されている。

アマゾン・コムのKindleで、オーウェル『一九八四年』『動物農場』の電子ブックを買った人は、六月に驚かされることになった。版元に問題があったから、としてこれらの本が手元のKindleから勝手に消し去られていたのだ。

だが昨年从今年にかけて、それが急変しつつある。グーグルが世界的にさまざまな量の書籍の電子化に乗り出し、日本では未発売だ

問題のある本が店頭から引き上げられるのはよくある話だ。だが、本や雑誌や通常のソフトなら、いったん買ったものを勝手に取り上げられることはありえな

## 相次ぐ安易な「削除」

は。またiTunesストアも問題を起こしている。アップルはこのオンライン店で販売されるiPhone/iPod用のソフトの健全性に、きわめて神経を使っている。わいせつ語が入っているソフトは、軒並みアダルト指定を受ける。先日、なんと辞書がこれを理由にアダルト指定を受け、ストアへの出店を拒否された。アップルはこれについて、対応のまずさを認めて

あるクリプトン・フューチャー・メディアが、そんなことに使われたら自社ソフトのイメージダウンだ、と称して削除を要求したのだ。当然ながらからは自社製品で作られたコンテンツに対して何の権利も持っていない。が、信じられないのか？ 目先の快・不快なんかより重要なことが世の中にはある。デジタルコンテンツも、そろそろそれを考えざるを得なくなりつつあるのではないか。

い！アマゾンは、この対応のまずさについて謝罪し、二度とやらないと宣言した。が、そもそもそんなことができるということ、そしてそれが実際に行われたことには多くの人が戦慄した。しかもそれが皮肉なことに、まさにそうした情

はいるが、でも方針には今のところ変化はない。我が国では、動画投稿サイトニコニコ動画が同様の問題を見せた。酒井ノリピの昨今の騒動を受けて、彼女の歌の替え歌を歌唱した『初音ミク』に歌唱された動画が投稿された。ところがそれに対し、なんとその歌唱ソフトのメーカーで

疑問を述べ、その後同社は、問題の動画を復活させた。投稿者に対する自主検閲を促すコメントつきで。

ネットは著作権無視でコントロールのきかない無法地帯とされる。でも実はデジタルコンテンツの真の問題は、コントロールができすぎてしまうことなのだ。今回とりあげたケースはいずれもそれを如実に示している。いま多くの日本のコンテンツ事業者は、抗議があればそれが正当なものだろうと不当なものだろうと、人に不快感を与えてはいけません、といった低級なお題目の下に問題のコンテンツをとりあえず消してしまい、その場をおさめるというのがありがちな対応だ。ニコニコの対応はその好例だろう。だがそれでいいのか？